

様式第 1 号

2025 年 6 月 20 日

文部科学大臣 殿

学校法人 北翔大学

理事長 山谷 敬三郎

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	北翔大学短期大学部
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・ <u>短期大学</u> ・高等専門学校・専門学校)
大学等の所在地	北海道江別市文京台 23 番地
学長又は校長の氏名	山谷 敬三郎
設置者の名称	学校法人北翔大学
設置者の主たる事務所の所在地	北海道江別市文京台 23 番地
設置者の代表者の氏名	山谷 敬三郎
申請書を公表する予定のホームページアドレス	http://www.hokusho-u.ac.jp/

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☐ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業

するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- ☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- ☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務課 小川美夏	011-386-8011	soumu@hokusho-u.ac.jp
第2号の1	学習支援オフィス 北西由紀子	011-387-9109	registra@hokusho-u.ac.jp
第2号の2	総務課 小川美夏	011-386-8011	soumu@hokusho-u.ac.jp
第2号の3	学習支援オフィス 北西由紀子	011-387-9109	registra@hokusho-u.ac.jp
第2号の4	総務課 小川美夏	011-386-8011	soumu@hokusho-u.ac.jp
第2号の4就職	キャリア支援センター 谷藤芳明	011-387-3659	career@hokusho-u.ac.jp
第2号の4その他	学生生活支援オフィス 遠藤志幸	011-387-3698	gakusei@hokusho-u.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☒）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1) ☐ 実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2) ☐ ①学外者である理事の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(3) ☐ ②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(4) ☐ 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- ☒ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	F201310100471	学校名	北翔大学短期大学部
設置者名	学校法人 北翔大学		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	3,080,306,101円	3,045,123,015円	35,183,086円
申請2年度前の決算	3,197,864,050円	2,988,721,426円	209,142,624円
申請3年度前の決算	3,203,818,660円	2,946,464,407円	257,354,253円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	6,529,413,006円	141,870,893円	6,387,542,113円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	220人	144人	65%
前年度	220人	161人	73%
前々年度	270人	209人	77%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況	65人	63人	96%

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況			#DIV/0!

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北翔大学短期大学部
設置者名	学校法人 北翔大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	こども学科	夜・通信			8	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページに掲載 2025jitumukeiken.pdf (hokusho-u.ac.jp)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北翔大学短期大学部
設置者名	学校法人 北翔大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/yakuin.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	社会福祉法人 湊仁会理事 会長	令和7年 5月29日 ～令和11年 度 定時評 議員会終結 の時まで	医療・福祉関係、企 業との連携
非常勤	川本謙一級建築士事務 所 代表	令和7年 5月29日 ～令和11年 度 定時評 議員会終結 の時まで	スポーツ関係団体 機関、企業との連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北翔大学短期大学部
設置者名	学校法人 北翔大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全ての科目について、詳細なシラバス(講義要綱)を作成している。作成に当たっては、学習支援委員会において、シラバス作成における記載事項を定め、記載方法の統一を図り、授業担当者は、示された記載要領に沿ってシラバスを作成している。 シラバスの記載事項は、「科目名」「授業形態」「単位数」「教員名」「授業の目的(ねらいと到達目標)」「授業の計画(テーマ、計画内容、授業時間外の学修内容、具体的な学習形態)」「テキスト」「参考書」「成績評価の方法(配分、補足)」「課題に関するフィードバックの方法」「実務経験と授業の関連(経験内容、科目との関連)」「質問への対応」「資格」「その他(履修に際しての留意事項等)」としている。 シラバスの作成過程は、例年、前年度の12月頃までに学習支援委員会でシラバス作成の方針・留意事項等をまとめ、翌年1月にシステムへの入力を授業担当者に依頼している。提出されたシラバスは、学習支援委員等の確認・校正等を経て、ホームページに掲載し公表している。	
授業計画書の公表方法	学生ポータルサイト及び本学ホームページから閲覧システムにより検索可能である。 ・本学ホームページ「講義要綱(シラバス)」 https://portal3.hokusho-u.ac.jp/campusweb/slbssrch.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 単位認定については、各学部・学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学則に規定する基準に基づいて行われている。 評価方法については、講義等における多様な評価方法をとることを推進しており、シラバスに、その評価方法を記載している。評価方法は、筆記試験、実技試験、課題評価、作品評価、受講態度等共通項目をたて、評価の配分を示し、補足欄にその詳細を記載している。評価については、S(90点以上)・A(89～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)の5段階によって評価し、SからCまでを合格とし単位が与えられる。 なお、段階を設けた成績評価の意味や数値、計算等については学生便覧に記載し、学生ポータル等も活用し学生に周知している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では、GPA(Grade Point Average)制度を導入しており、S=4.0 A=3.0 B=2.0 C=1.0 D=0.0 としている。GPA の計算は、以下のとおりである。 学期 GPA = $\frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得た GP}) \times (\text{科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$ 年間 GPA = $\frac{(\text{その学年に評価を受けた科目で得た GP}) \times (\text{科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学年に評価を受けた科目の単位数の合計}}$ 通算 GPA = $\frac{((\text{各学期に評価を受けた科目で得た GP}) \times (\text{その科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$ GPA は、学生の履修指導、奨学金の選定、学業表彰対象者の選定等に活用されており、教員は、学生の GPA データをもとに授業改善に役立てている。 CAP 制度については、学生が履修する講義・演習・実習内容について予習・復習を含めて主体的に学ぶ機会を保障するために、各学年次で履修登録できる単位数を 48 単位に制限している。なお、資格関連科目においては一部 CAP 除外科目を設定している。 また、GPA の評価によって、以下のとおり上限単位数を超えて履修できることにしている。 ・直前学年次の年間 GPA が 3.5 以上の場合は、8 単位加算 ・直前学年次の年間 GPA が 3.0 以上 3.5 未満の場合は、4 単位加算 ・直前学年次の年間 GPA が 3.0 未満の場合は、単位加算なし これら GPA 制度及び CAP 制度については根拠規定を設けるとともに、学生便覧に記載し学生に周知している。また、学生ポータルでは学生本人が自身の GPA を確認できるようになっている。※CAP 制度はこども学科のみ適用	
客観的な指標の算出方法の公表方法	GPA 制度の説明と算出方法等については学生便覧に記載している。学生便覧は本学ホームページにも掲載され、学内外を問わず誰でも閲覧することができる。 ・本学ホームページ「学生便覧」 https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定等は、各学科におけるディプロマ・ポリシーを踏まえ、大学案内、学生便覧及びホームページ等に明記し、学生には、新入生オリエンテーション、クラスオリエンテーション等機会あるごとに周知に努めている。 短期大学部の卒業要件単位は 62 単位である。卒業認定については、学科会議で単位の修得状況などについて厳正に審査を行い、教授会で審議のうえ決定している。	

卒業の認定に関する 方針の公表方法	ディプロマ・ポリシーについては、大学案内、学生便覧、本学ホームページ等で公表している。 ・大学案内 北翔大学アドミッションセンター ・学生便覧 ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/ ・学部・学科ディプロマ・ポリシー ホームページ 短期大学部 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/juniorcollege/index.html こども学科 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/juniorcollege/childhood/
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北翔大学短期大学部
設置者名	学校法人 北翔大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2024R6.pdf
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2024R6.pdf
財産目録	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2024R6.pdf
事業報告書	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2024R6.pdf
監事による監査報告(書)	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2024R6.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 第4期 中期計画 対象年度: 2021.4-2026.3)
公表方法: 大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/chukikeikaku/index.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/corporation.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/jihee.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 ライフデザイン学科
教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf
（概要） 教養教育、キャリア教育を通じて社会人としての基礎力を身につけ、キャリアデザイン、ファッション舞台アートに関わる専門的知識・技能を自己のライフデザインを描きながら学び、地域・社会で活躍する人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokushoac.jp/school/juniorcollege/lifedesign/index.html
（概要） 本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。 【知識・理解】 (1) 感性豊かな、魅力ある人間性を持ち、社会人としての幅広い教養を身に付けている。 (2) キャリアデザイン、ファッション、舞台芸術のいずれかの専門分野での学修を通して、社会に参加していくための実践的な智慧を身に付けている。 【思考・判断】 (3) 自らのライフステージにおいて課題を設定し、その課題を解決するために、専門分野での学修を敷衍し、考察することができる。 【関心・意欲・態度】 (4) 地域社会において、積極的に自身の学修成果を還元することができる。 (5) 他者を尊重し、共生社会の実現に寄与することができる。 【技能・表現】 (6) 専門分野での学修を通して、高い職業的技能を身に付けている。 (7) 自身の考えや立場を他者に伝え、他者との調整ができるコミュニケーション能力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho.ac.jp/school/juniorcollege/lifedesign/index.html
（概要）本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。 【教育内容】 (1) 短期大学部共通科目では、短大での学修への導入科目として「基礎教育セミナーⅠ」、「基礎教育セミナーⅡ」を配置する他、英語、情報機器操作の基礎を修得する科目を配置している。 (2) コース共通科目の必修 4 ユニットでは、本学科の 5 つの教育の柱である教養・専門・総合・キャリア・編入教育を理解するための「ライフデザイン」、「キャリアデザイン」等の科目を配置、2 年次に配置される「専門ゼミⅠ」、「専門ゼミⅡ」では、各自が設定した課題について、1 年間研究し、論文、作品として成果物の発表を行う。 (3) コース共通科目の選択 4 ユニットでは、併設の北翔大学との連携により、デザイン・美術・健康づくり・第 2 外国語等の科目を配置し、幅広い教養を身に付ける。また、本学科の特色の 1 つである地域密着型インターンシップ科目として、「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」を配置している。 (4) コース専門科目のキャリアデザイン 4 ユニットでは、経済・経営・秘書・会計・簿記・地域等に関わる科目を配置し、学期・年次進行に伴い、基礎から発展へと段階的に学修できる体系としている。

(5) コース専門科目のファッション4ユニットでは、理論・作品制作・ビジネス・ファッションショー構成等に関わる科目を配置し、学期・年次進行に伴い、基礎から発展へと段階的に学修できる体系としている。

(6) コース専門科目の舞台芸術4ユニットでは、バックステージ・演技・声優・ダンス等に関わる科目を配置し、学期・年次進行に伴い、基礎から発展へと段階的に学修できる体系としている。

【教育方法】

(1) コース専門科目では、双方向型授業展開を重視し、Plan→Do→See→Thinkのサイクルの循環により、知識・スキルを高める学修を行っている。

(2) コース専門科目では、学内外における実習を多数設定し、学修内容を実践する機会を用意している。特に、地域や異世代と交流し知見を拡げさせる実習を重視している。

(3) 学科独自ツールである「履修記録ノート」により、入学時からの目標設定と学期末、年度末等の節目における達成度の確認を行っている。

(4) 担任制度により、入学時、学期末、年度末等の節目に面談を行い、学修状況確認と卒業後の進路について指導を行っている。

【教育評価】

(1) 各授業科目において、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質や能力を修得させるために、カリキュラムマップ上の科目の位置付けを考慮した総合的な評価を行う。

(2) 総合的な評価は、各授業科目の特性に応じ「筆記試験」、「実技試験」、「課題評価」、「作品評価」、「受講態度」、「確認テスト」、「発表」等を組み合わせて多角的に行う。実習を含む科目では、実習への取組状況や積極性、貢献度等も含めて評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）
<https://www.hokusho-u.ac.jp/school/juniorcollege/lifedesign/index.html>

（概要）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

(1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。

(2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。

(3) キャリアデザイン、ファッション、舞台芸術のいずれかの専門分野に興味を持ち、修得した知識や経験を社会で役立てたいという意欲がある。

(4) 他者の考えに耳を傾け、理解しようと努める態度を有している。

(5) 自身の興味や考えを論理的に考察し、他者に説明することができる。

学部等名 こども学科

教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）
https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf

（概要）

一般教養に関する広い知識を学ぶとともに、こどもの理解、こどもを取り巻く環境や社会的課題及び子育て支援に関する専門的学芸・技術を学び、教育・保育等に関わる優れた実践力を有する人材の育成を目的とする

卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）
<https://www.hokusho-u.ac.jp/school/juniorcollege/childhood/index.html>

(概要) 本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。 【知識・理解】 (1) 感性豊かな、魅力ある人間性を持ち、社会人としての幅広い教養を身に付けている。 (2) 保育・教育の分野及び保育、教育いずれかのコースでの専門的な学修を通して、保育者・教育者として社会に参加していくための実践的な知恵を身に付けている。 【思考・判断】 (3) 自らの生涯設計において課題を設定し、その課題を解決するために、専門的な分野での学修を生かし、社会に役立てようと考察することができる。 【関心・意欲・態度】 (4) 教育現場及び地域社会において、積極的に自身の学修成果を還元することができる。 (5) 他者を尊重し、共生社会の実現に寄与することができる。 【技能・表現】 (6) 保育者・教育者をめざす専門分野での学修を通し、高い職業的技能を身に付けている。 (7) 自身の考えや立場を他者に伝え、他者との調整ができるコミュニケーション能力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/juniorcollege/childhood/index.html
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。 【教育内容】 (1) 短期大学部共通科目では、短大での学修への導入科目として「基礎教育セミナーⅠ」、「基礎教育セミナーⅡ」を配置する他、英語、情報機器操作の基礎を修得する科目を配置している。 (2) コース共通科目では、保育士関連科目、保育士・幼稚園教諭関連科目、幼稚園・小学校教諭関連科目等を配置し、保育士資格、教員免許状等取得に必要な知識や実践力を段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成し、保育者・教育者の土台作りを行っている。 (3) コース共通科目での学びを通して、「社会福祉主事任用資格」の取得を位置付けている。 (4) コース専門科目では、各コースの専門性を伸ばすべく、より高度で専門的な科目を配置し、学びの深化を図っている。 (5) コース専門科目での学びを通して、保育コースでは「幼児体育指導者検定２級」、「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格２級・１級」いずれかの取得を位置付けており、教育コースでは「こども環境管理士２級」の取得を推奨している。 (6) このように、学科横断的なコース共通科目そして専門性を重視したコース専門科目へと２年間で段階的に学修できる体系としている。 【教育方法】 (1) ０歳から１８歳までの発達段階に応じたこども理解や指導の方法、ならびにその年齢幅においても普遍的である教育に対する情熱やこどもに対する接し方などを、一貫して学べるようにしている。 (2) 自主的で対話的な深い学びを重視し、知識やスキルなどの他、コミュニケーション力を高める学修を行っている。 (3) 保育所、児童養護施設、幼稚園、小学校等での実習を設定し、学修内容を実践する機会を用意している。それらの実習では、こどもに関わり、先生方と協力して経験を深め、教育に対する意欲をさらに高めることを重視している。 (4) 担任制度により、入学時、学期末、年度末等の節目に面談を行い、学修状況確認と卒業後の進路について指導を行っている。 【教育評価】 (1) 各授業科目において、ディプロマ・ポリシーで示した能力や資質が育成されているかどうかを見極める振り返りを行う。また、実習での活動の様子や積極性なども含めて評価

する。 (2) 授業後に、学びの振り返りを行うなど、習熟度を学生自ら確認できるようにする。 (3) コース共通科目、コース専門科目、実習での活動の様子、免許・資格取得状況等から、2年間（長期履修生は3年間、4年間）の学びの成果を総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内、学生募集要項） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/juniorcollege/childhood/
（概要） 本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。 (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。 (2) 論理的・社会的なものの見方・考え方ができる。 (3) 保育者・教育者を目指す上で、保育、教育コースの専門的な分野に興味や関心を持っている。 (4) 修得した知識や経験を保育・教育現場や社会で役立てたいという目的意識や意欲がある。 (5) 自分の考えを論理的に考察し表現するなど、コミュニケーション能力を身に付けている。 (6) 創造したり表現したりすることの技能が備わっている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/senninkyoin.pdf
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	0 人	－					人
ライフデザイン学科	－	人	1 人	人	人	人	1 人
こども学科	－	6 人	5 人	3 人	人	人	14 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2 人		12 人					14 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページ https://www.acoffice.jp/hsuhp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD ネットワーク“つばさ”、北海道 FD・SD 協議会に加盟							
FD/SD 研修会及び関連イベントを年数回実施、授業改善アンケートの実施、学生 FD 活動の支援							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
ライフデザイン学科	0 人	0 人	%	0 人	1 人	%	—人	—人
こども学科	110 人	55 人	50.0%	220 人	143 人	65.0%	—人	—人
合計	110 人	55 人	50.0%	220 人	144 人	65.5%	—人	—人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
ライフデザイン	4 人 (100%)	0 人 (0%)	3 人 (75.0%)	1 人 (25.0%)
こども	61 人 (100%)	1 人 (1.6%)	59 人 (96.7%)	1 人 (1.6%)
合計	65 人 (100%)	1 人 (1.5%)	62 人 (95.4%)	2 人 (3.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 北翔大学、小樽市、余市町、雄武町、函館市立高丘小学校、小樽市立奥沢小学校、千歳市立高台小学校、 (学)野幌キリスト教学園のつばろ幼稚園、(学)帯広学園第一いずみ幼稚園、(学)浅利教育学園認定こども園西町さつき保育園、(学)柏学園認定こども園恵み野幼稚園、(学)釧路カトリック学園認定こども園根室カトリック幼稚園、(福)陽光福祉会こども園ひかりのこさっぽろ、(福)高陽福祉会認定こども園ピッコリーノ学院、(福)誠染保育園、(福)北ひろしま福祉会、(福)江別わかば福祉会わかば保育園、キッズラボ(株)キッズラボボールパークこども園、(株)クラ・ゼミ、(株)モニカ、アルティウスリンク(株) 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 全ての科目について、詳細なシラバス（講義要綱）を作成している。作成に当たっては、学習支援委員会において、シラバス作成における記載事項を定め、記載方法の統一を図り、授業担当者は、示された記載要領に沿ってシラバスを作成している。 シラバスの記載事項は、「科目名」「授業形態」「単位数」「教員名」「授業の目的（ねらいと到達目標）」「授業の計画（テーマ、計画内容、授業時間外の学修内容、具体的な学習形態）」「テキスト」「参考書」「成績評価の方法（配分、補足）」「課題に関するフィードバックの方法」「実務経験と授業の関連（経験内容、科目との関連）」「質問への対応」「資格」「その他（履修に際しての留意事項等）」としている。 (様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】該当部分再掲)
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

単位認定については、各学部・学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学則に規定する基準に基づいて行われている。

評価方法については、講義等における多様な評価方法をとることを推進しており、シラバスに、その評価方法を記載している。評価方法は、筆記試験、実技試験、課題評価、作品評価、受講態度等共通項目をたて、評価の配分を示し、補足欄にその詳細を記載している。評価については、S (90 点以上)・A (89～80 点)・B (79～70 点)・C (69～60 点)・D (59 点以下)の5段階によって評価し、S から C までを合格とし単位が与えられる。

なお、段階を設けた成績評価の意味や数値、計算等については学生便覧に記載し、学生ポータル等も活用し学生に周知している。

(様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】該当部分再掲)

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	こども学科	62単位	☒ 有・無	48単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：学生便覧及びホームページに掲載		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/studentlife/campusguide/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
短期大学 部	ライフデザイン	375,000 円	－円	125,000 円	施設設備費 長期履修
	こども	820,000 円	230,000 円	250,000 円	施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要）教育支援総合センターに「何でも相談」窓口を設け、各部署と連携を図りながら学修・生活全般にわたる疑問や質問に対応できる体制を整えている。また、学修支援では、教員のオフィスアワーを利用して個別の指導を行い、支援に加えて授業評価を実施することで学生のニーズを把握し理解するように努めている。学生が安心して学びを深められるよう、経済的な支援を必要とする学生へは奨学金の周知を行ったり、100 円朝食を企画するなど、学生のあらゆる生活全般のサポートを行っている。また、令和 6 年度に実施した海外研修の取り組みを今年も継続し、国際交流を活発化していく。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） （１）社会人基礎力・就業力の養成 進路先の具体的検討から始め、履歴書作成や面接対策、企業・幼稚園・保育所等におけるビジネスマナーを理解する内容を取り入れている。 （２）個人面談・連絡の実施 対面とオンライン（チャットを含む）を併用し、面談や進路状況の確認連絡をしている。面談等をきっかけにキャリア支援センターの積極的な利用にも繋がり、進路決定までの支援を継続している。 （３）学内合同企業研究会の開催 毎年 2 月に開催している。令和 7 年 2 月はオンラインで開催し、参加企業等 64 社に対し、延べ 254 名の学生が参加した。 （４）学内単独企業説明会の開催 採用に関する内容の他、職業の魅力を伝える説明会を開催している。令和 6 年度は 38 社開催し、延べ 113 名の学生が参加した。 （５）就職ガイダンスの開催 学年に合わせた内容を 4 月に開催し、就職への醸成を図っている。 （６）就職活動対策セミナー 就職情報サイトの活用や企業研究、エントリーシート作成、面接等、就職活動の対策セミナーを開催している。参加のしやすさを考慮し、対面とオンラインを併用している。 （７）職務適性テストの実施 1 年次に実施している。自身の性格の特徴や強み、職務適性を知り、自己分析や進路選択に役立てている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要）本学は保健センターの中に保健センター、学生相談室、アクセシビリティ支援室の部門を含めている。それぞれの機能としては、保健センターでは健康で充実した学生生活を送ることができるよう、保健師や看護師が疾病予防や健康の保持増進を援助することを目的として健康診断等を運営、傷病対応している。学生相談室では心理的な悩みや、健康・学業・進路の悩みなど大学生活に関することをカウンセラー（臨床心理士・公認心理師）が相談に応じている。また、アクセシビリティ支援室ではコーディネーター（精神保健福祉士）を中心として、障害のある学生の支援ニーズに応じており、合理的配慮の調整や支援体制の整備に取り組んでいる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/infopublic.html
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F201310100471
学校名 (〇〇大学 等)	北翔大学短期大学部
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 北翔大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		24人	24人	24人
内 訳	第Ⅰ区分	15人	13人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅱ区分	—	—	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅲ区分	—	—	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	—	—	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				24人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	人	—	—
計	人	—	11人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。